

早稲田大学 教育学部 英語 講評

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題は例年通り。分量、難易度とも昨年並みと言っていいだろう。読解問題が4つ、会話文問題が1つなのは変わらなかった。読解問題に脱文挿入問題が出たのが今年の少し意外な部分か。文学部や文化構想学部では毎年必ず出題され、かなり難しく差がつく大問だ。教育学部の問題は、数年前に突然やさしくなり、最近はだいたい同じようなレベルで推移している。2000年代の教育学部の問題は難しすぎたと思われるが、今は商学部やスポーツ科学部と並ぶくらいの解きやすい問題と言える。例年のテーマは人文、社会、自然科学系のすべてを含むことが多い。昨年はまさにそうであったが、今年は純粋な自然科学系のテーマは出題されなかった。教育学部の自然科学系は読みにくいと言う受験生が多いので、自然科学系が不得意な受験生には助かったかもしれない。75パーセント程度が合格最低点ではないかと推察する。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	読解問題	分量は昨年より多くなり、脱文挿入問題が加わった分、正解を出すのは大変になったと思われる。下線部の内容を問う問題は、下線部だけでもほぼ意味が取れるものであった。たとえば、sort「～を分類する」、仮定法過去完了形、副詞のthis「これほど」、persuade A to (do)「Aに～するよう説得する」、deceptive「惑わせる」の意味などがポイント。ただ、balance A against Bで「AをBと比較する」の意味はかなり難しい表現。脱文挿入問題に関しては、文学部や文化構想学部ほど難しくはない。選択肢にも空所の前後にも代名詞や接続詞に類するものが結構ある。また、文の最後で述べられたことが次の文の文頭で主語になるというパターンが狙われていることも押さえておくといいだろう。	標準
II	読解問題	分量はやや増え、レベルは昨年並みか。この大問の下線部問題は、下線部にある語彙がほぼ誰でも知っている語彙で形成されていて、前後を読まなくても結構意味を取ることが可能であった。早稲田大学の他の学部を考えると珍しいタイプということになりそうだ。(1)のthis crude approximationはapproximatelyを知っていればどうにかなりそう。(3)のdispensableはindispensableの反意語ではないかと考えられればいい。(4)では「分野」の意味のfieldsや「重要だ」の意味のmattersが狙われている。空所補充問題もそれほど難しくはない(ただ、非常に良問である)。「A」は少し後の文との対応関係が見えればいい。They should [A] that clear English abstracts and keywords ~ are available ... they too should make sure that abstracts and keywords are available ~となっていて、[]に同じ意味の表現が入る。[C]も以下のように見るといい。~those designed specifically...are far more accurate than [C] systems that are designed for all kinds of text ~のような関係で、今度は反意語だ。	標準
III	読解問題	こちらも分量がやや増えたが、難易度は昨年並み。昨年は冒頭にnudgeという語があり、これがキーワードなので、これがどういう意味かわからず、最後までやや状態だった受験生も多かったと思われる。今年もわかりにくい導入部分になっている。ここは内容一致問題が基本。実は他の大問はしっかり内容が理解できなくてもある程度は得点できてしまうのだが、こちらは正確な内容把握があつて初めて正解が導ける問題。結構英文自体が難しいので、この内容一致問題で差がつくかもしれない。carnivoresとpredator animalsが同じものを指していると判断できるかなども、正解を導く重要な視点だ。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
IV	読解問題	<p>ここも抽象的でやや読みにくかったかもしれない。下線部の意味を問うものと内容一致問題が基本。下線部の意味を問うものは、難しい単語が含まれているわけではないが、前後の内容からしか答えは出ない。たとえば、(2)の a simple experiment は、a なのだから当然具体的内容は後ろに書かれている。(3)の直後にはコロンがある。コロンの後ろで具体的に説明されていると読むのはそれほど難しくはない。内容一致問題は、リード部分を先に読んでおいて、本文を読み進める途中で内容一致問題に関連している箇所だと感じる事が、情報処理能力という意味で重要だ。</p>	やや難
V	会話文問題	<p>レベルは昨年並みか。昨年出された語整序問題がなくなった。教育学部は本文全体の内容から、発言者の意図などを類推させる問題がよく狙われるが、今年はこの会話がどこで行われているかという設問が出た。それほど難しくはないが、教育学部らしい問題。下線部の内容を問うものはIV同様、下線部だけでは答えが出ないタイプであった。たとえば、(3)の We は少し後ろの As a scientist, we ~というくだりがある。「科学者として」とあるのだから、We は科学者ということになる。空所補充問題は結構悩ましいものであった。tune in は何となくラジオで使えそうかな、くらいの類推で行くしかない。昔教育学部で be invested with~を問う問題が出たが、[C]もなかなか迷う問題であった。今年文強勢問がなくなった。最近では珍しい問題なので、来年度以降も出る可能性は低そうだ。昨年、今年とも会話独特の表現は出なかった。教育学部では、会話表現の勉強はしなくていいかもしれない。</p>	標準